

お年寄りや障害者の 集いの場づくりを楽しむ



RECREATION

まずは一步を踏み出して

ゆっくりと集まりの形をつくっていった

高齢者の主体性を引き出されると、活動の幅も広がる

成果を形にすることが集まりを楽しむ

振り返ればこんなこともできていた。

レポートをひもとく・1

レポートをひもとく・2

参考例の概要は

障害者も入った気のあった仲間が、月に1回程度、地域の高齢者が集まる場を開きます。そこでは、この仲間たちが高齢者から地域に伝わる手仕事文化などを教えてもらいながら、ワラ細工などを楽しんでいます。この集まりの特徴は、高齢者の得意なこと、経験してきたことを生かして、この集まりで行うプログラムに結びつけているところです。

この仲間たちは、ニュースレターをつくったり、手作りの掲示板に活動の様子を掲示するなどして、高齢者の得意、技、経験といったものが、決して必要とされなくなったものではなく、見直していく必要があることを伝える試みもしています。また、この集まりで作ったワラ細工などを、フリーマーケットで販売しています。そうすることで、「自分の得意なことが役に立っている」、「作ったものが活用されている」という実感がもて、この集まりに参加する張り合いが生み出されています。

この事業グループに関わる人たちは次の通り。

番頭：地域の生活文化などを楽しんでいた仲間3名。そのうち一人は、脳血管障害のため半身麻痺の障害を持つ。

ご隠居さん：地域の高齢者への窓口となってくれたおばあちゃん。

常連さん：ご隠居さんの友人のおばあちゃん7、8名。

お客さん：常連さんの家族や孫、番頭さんの友人、子ども。その他、関心を持ってくれた地域の人、子どもたち。

こんな応用も

- ・地域の「生きがい対応型のデイサービス」で、より高齢者が主体性を発揮しやすいプログラムを考える際のヒント。
- ・高齢者と子どもたちの交流プログラムを考えると、本当に両者が交じり合った交流を考える際のヒント。
- ・楽しみながら高齢者の技や知恵を体験し、人と自然のつながりなどを学んでいく、「総合的な学習」のプログラムとしての可能性。